

釣リフェスで放流式典

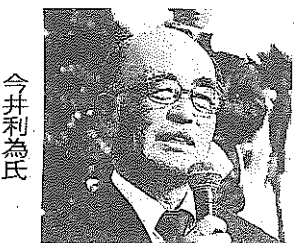


幼稚園児がカサゴ稚魚を

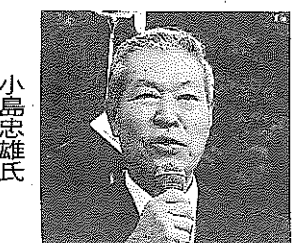
釣リフェスティバル2020初日の1月17日(金)、(一社)日本釣用品工業会は開会式に続き、パシフィコ横浜裏手の臨港パークで、放流式典を開催し、カサゴの稚魚放流「写真」を実施した。これは、つり環境ビジョンコンセプトに伴うLOVE BLUE事業の一環として、同フェスに合わせて行ったもの。今回で3年目となる。

横浜港に流れ込む臨港パーク内の水路の前に日釣工や(公財)日本釣振興会、横浜市などの関係者・来賓をはじめ、地元幼稚園児が一列に並び、大きく成長するようお願いを込めて、ちびっ子

また、この会場に続き、稚魚を生産する(公財)神奈川県栽培漁業協会の手で横浜市鶴見区の大黒ふ頭に4500尾を放流、同フェスを記念し合計5000尾のカサゴを放流した。



今井利為氏



小島忠雄氏

式典に先立ち、県栽培漁業協会専務理事の今井利為氏が挨拶。同県では8年間にわたってLOVE BLUE事業でマダイ稚魚の放流が行われ、マダイが釣れるようになったと説明。「各方面で

SDGs(持続可能な開発目標)が唱えられ、国も2018年に漁業法を70年ぶりに改正し、資源管理を主体に進めることにしている。種苗放流は資源を持続的に利用する一つの方法であり、自然環境の保全・回復を図り、釣り人と漁業者が共存できる社会を目指したい」と述べた。また、LOVE BLUE委員長の小島忠雄氏は、釣具メーカー各社の浄財を元に取り組んでいる同事業の仕組みや主旨を説明し、「未来に向けて釣りが継続できる環境づくりを進めている」と述べた。

勝者の釣。

gamakatsu

Never compromise. Gamakatsu. Be the best.

<http://www.gamakatsu.co.jp>